

「カーボンニュートラル(ネットゼロ)に関する連絡会議」 設置の背景と趣旨

カーボンニュートラルの実現をめざす日本、世界の動き

- 日本:「2050年にカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現をめざす」。2050年目標と統合的で、野心的な目標として、「2013年度から46%削減することを目指し...さらに50%の高みに向けて、挑戦を続け」る
- 2021 G7サミット(2021年6月):「世界の平均気温の上昇を1.5度までに抑える」「遅くとも2050年までのカーボンニュートラル(ネットゼロ)の実現」が目標として共有、長期目標と統合的な2030年目標の設定と対策の実施に合意

2050年カーボンニュートラルの実現には、エネルギー、建築物、交通を含むインフラ、産業などにおいて急速で広範囲なかつてない規模の社会の変革・移行が必要

- **最新の科学**に基づき、**技術の革新と普及**を促し、**広範な政策導入**、**投資の拡大**が求められる

中長期的な視角をもって、学術の諸領域が連携・協働し、総合的、俯瞰的な検討が必要となる課題が少なくない。学術が果たす役割は大きい

2021年Gサイエンス学術会議(2021年3月)でも「**ネットゼロと気候変動影響に備えた未来**」についてG7各国政府に対して提言

「カーボンニュートラル(ネットゼロ)に関する連絡会議」を設置いたします

- カーボンニュートラルに関連する審議等を行う委員会等の代表者からなる「連絡会議」を設置いたします
- 学術会議の委員会等ですでに審議が進んでいます。例えば
 - 地球惑星科学委員会
 - 環境学委員会
 - 土木工学・建築学委員会・環境学委員会合同脱炭素社会分科会
 - 総合工学委員会 エネルギーと科学技術に関する分科会持続可能な開発目標達成のための洋上風力発電開発検討小委員会 など

※学術フォーラム「気候変動等による地球環境の緊急事態に社会とどう立ち向かうかー環境学の新展開ー」

- 日時:2021年7月3日(土)13時から17時50分
<http://www.scj.go.jp/ja/event/2021/308-s-0703.html>

- 当面の活動(予定)
 - 学術会議における審議や取り組みの交流と連携の促進
 - 学協会などとの交流・連携の促進
 - これらの取り組みを通じて、科学的助言の発出や社会への発信などの今後の取り組みを検討